

論文タイトル： Candidate Stable Rules for Separable Preferences

報告者： 初見健太郎（大阪大学社会経済研究所 / 日本学術振興会特別研究員PD）

報告者連絡先： hatsumi at iser.osaka-u.ac.jp

要旨作成日： 2010年1月19日

要旨：

Dutta, Jackson and Le Breton (2001, *Econometrica* 69, 1013-1037) は選挙メカニズムを考える際の基準の一つとして、候補者安定性を提案した。候補者安定性は選挙の候補者にとって立候補を取り下げずにきちんと立候補することが弱支配戦略になることを要請する。Dutta et al. (2001) は、選挙メカニズムを考える際の基礎としての候補者安定性の重要性を強調している。候補者安定性が満たされていれば、候補者の選挙前での立候補戦略を考慮する必要がない。逆に、候補者安定性が満たされない際には、立候補戦略を考慮してメカニズムを構築する必要がある。Dutta et al. (2001) は一般的な一人当選者の選挙において、投票者と候補者の選好領域が広範であるならば、候補者安定性と全員一致の尊重を満たすメカニズムは独裁性しか存在しないことを示した。

本論文では、Barbera, Sonnenschein and Zhou (1991, *Econometrica* 59, 595-609) にてモデル化された、参加者の選好が分離性を満たし、かつ当選者数が可変である選挙において、候補者安定性の性質を調べた。立候補者の選好領域として、次の三つが考えられる。分離性に加えて、(i) 立候補者本人が立候補したがつていることのみを要請する低制限選好領域、(ii) 立候補者が自分を一番いい立候補者であると考えていることを要請する中制限選好領域、(iii) 立候補者が自分を含む結果は何であれ、自分を含まない結果よりも好ましいと考えることを要請する高制限選好領域の三つである。本論文はそれぞれの領域において、候補者安定性は、(i) 強安定性、(ii) 中安定性、(iii) 選ばれなかった候補者の無干渉性と同値であることを示した。更に低制限選好領域においては、候補者安定性を満たすメカニズムは各候補者の選考を他の候補者とは独立して行うメカニズムのみであることを示した。